

膠原病関連間質性に於ける Tacrolimus 使用に関する後ろ向き調査

膠原病において間質性肺炎は生命を脅かす可能性がある疾患として重要で、しばしばステロイド及び免疫抑制剤の併用療法が行われます。ただし膠原病関連間質性肺炎の治療薬として使用される免疫抑制剤はこれまで大規模な研究は少なく、有効かつ、安全性の高い薬剤の必要性が唱えられています。膠原病の一つである皮膚筋炎関連間質性肺炎において Tacrolimus (プログラフ®) が肺機能改善およびステロイド減量が可能であったとの報告や Tacrolimus を使用した患者さんでは予後を改善したとの報告が本邦を中心に複数あり、膠原病全体としてもその効果が期待されています。今回我々は当院にて Tacrolimus にて治療介入を行った膠原病関連間質性肺炎患者の治療反応性、有害事象について後ろ向きに検討する研究を企画しています。

2008年1月より、2015年12月までに当院で診断された膠原病関連間質性肺炎患者さんのうち、Tacrolimus にて治療を行った患者さんの診療情報を収集して解析を行います。この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・山野泰彦（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 谷口 博之
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 近藤 康博
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 山野 泰彦